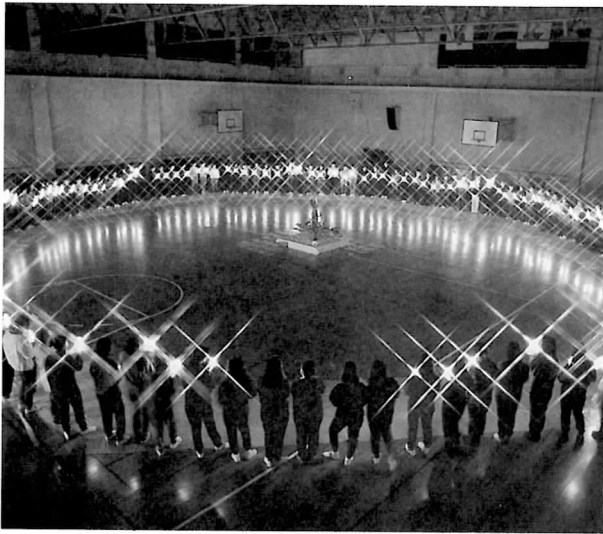


明るい未来を

——心を形にして——

現代は、激変の時といわれている。私達の周辺を見ても、電化・機械化が進んで目を見張らんばかりの変容ぶりである。科学技術の長足の進歩を思えば当然のことではあるが、そうした変容変貌から、人間の意識にも変化が生じ、価値観も多様化してきた。しかし、そうした変容変貌の激しい社会であればある程、動かない不動の道徳心というものが必要になってくるのではないだろうか。

では、不動の道徳心とは何であろうか。それは、いついかなる時にも、すべての人に喜ばれ受け入れられる真実なるものを指しているのである。とすれば、五訓の徳性等も不動の道徳心とみて差し支えないで



江田島青年の家でのキャンドルサービス

あろう。しかも、その不動の道徳心とは、単に、心に知るに止めず、形にあらわされるのでなければ、決して真実なるものとはいえない。満員電車の中でお年寄りに席を譲るのは善いことだと知っていても、実際に、そうしなければ、決して謙譲の徳のある人とはいえないのである。

半年程前になるが、中国新聞に、草花の命を大切にされたさわやかな幼い姉妹のことが出ていた。場所は、松江のとある小高い丘の公園。小学生の姉妹が、公園の隅の屑籠から無心に何かを捜している。やがて、お姉さんはひも数本を、妹さんは割りばし二・三本を見つけ出し、坂をかけおりていった。そこには、風雨に打たれたのか、折れ曲った草花がいたいたしく咲いている。お姉さんは「ここよ」と指さし、妹さんは割りばしに、折れ曲った草花をひもで二・三か所結びつけた。「さあ、終わったよ、手を洗おう」とお姉さんは妹さんに声をかけて、さわやかに去って行った。

久方ぶりに接した女の子の純情さに感動した。末長く「命を大切に」をモットーに、姉妹仲良く生き抜いてほしいと祈りながら、すがすがしい二人の後ろ姿を見送った。

これは、心やさしいさわやかな姉妹の一部始終を見ておられた中学校の先生、神門邦次さんのことばである。

動植物をいとおしみ、生きとし生けるものの命を大切にすることは誰しももっている。だが、素直にその心を形にすることはむづかしい。この幼い姉妹の行為には、神門先生ばかりか私もまた感動した。そして、心のうちな^る徳性を形に^することの大切さを教えられた感がするのである。

思うに、五訓の根幹にあるものは感謝の心ではないだろうか。正直の徳性も感謝の心なしには真の正直とはな

り得ず、勤勉の徳性も感謝の心がなければ怠惰になるであろうと思うからである。もしそうだとすれば、五訓を形にするとは感謝の心を形にするということであろう。

では、感謝の心を形にするとはどういうことであろうか。

申すまでもないが、人間は一人では生きられない。万恩あつて生かされているのである。このことに気付けば、誰しも、おのずからに、「ありがとう」という感謝の気持ち^が口から出てくるはずである。つまり、感謝の心を形にするとは、明るい挨拶をするということなのである。

かつて、オアシス運動というのがあった。「お早う」「ありがとう」「失礼します」「すみません」という挨拶語の頭文字をとって名付けた挨拶運動のことである。思うのだが、先述したように、五訓の根幹が感謝であるとすれば、その心を形にして、私達もオアシス運動を推進してはどうだろう。友に会えばにこやかに「お早う」と挨拶し、授業が終れば「ありがとうございました」とお礼を述べ、混んだ車中などでは「失礼します」「すみません」と他人を思いやる挨拶をかわすのである。恐らく、私達の一日は明るい楽しいものになることであろう。こうして、学園五訓を形にした生活をはじめれば、そこからは、必ずや明るい未来が約束されるに違いない。私も、諸姉と共に、是非とも挨拶を交しあう日々を送りたいものと思う。明るい希望に満ちた未来を手にするために。